

令和6年度 ミナクル夏休み教室 実施報告書



豊橋市大清水まなび交流館(ミナクル)

1 経緯

ミナクル夏休み教室は、平成 28 年度から令和元年度まで 7 月下旬に小学生の夏休みの宿題（ポスター、読書感想文など）支援として開催し、令和 2 年度と令和 3 年度は新型コロナウイルスの影響により中止、そして令和 4 年度、各小学校で取り組み始めた「トヨッキースクール」と異なる内容（夏休みの日誌、自由研究、作文など）として、お盆明けに 3 日間開催した。しかしながら、お盆明けでは宿題がほとんど終わっていて大きな効果が見込めないという意見から、昨年度は 8 月上旬に開催した。結果、参加者は定員より少ない中ではあったが、好評で一定の成果があった。

そこで本年度は、基本的な枠組みは昨年度と同様に行い、各学校の協力も得る中で周知を重点的に行い開催することとした。

2 事業概要

(1) 目的

小学生の夏休みの宿題支援として、ミナクルにおいて時間と場所を提供し、併せて宿題の分からないところについては高校生に教えてもらえる環境を整え、小学生の「宿題支援」と高校生の「学習支援体験」、そして人と人との「地域内交流」を推進する。

(2) 内容

南高校の生徒たちの協力のもと、南稜中学校区と近隣校区の小学生の「夏休みの宿題」の支援を行う。

(3) 日程

8/6（火）8/7（水）8/8（木）の 3 日間 午後 2 時～4 時（120 分/日）

(4) 会場

ミナクル第 1・第 2 多目的室、第 3 会議室、工作室

(5) 宿題（科目）

夏休みの日誌、自由研究、作文など

(6) 形式

自習形式とし、質問がある場合は南高生が学習支援（アドバイス）を行う。

※宿題が終わった小学生は、図書館利用や高校生とのテーブルゲーム交流などで時間を過ごす。

(7) 対象者

- ・自習する側：大崎、植田、野依、大清水、富士見、老津小学校の1年生から6年生
- ・支援する側：豊橋南高等学校の生徒

(8) 定員

小学生 40名/日

(9) 参加料

無料

(10) 申込み

7/9 (火) から開催日直前まで (先着順)

(11) 周知方法

- ・ミナクル通信7月号・HP・facebookに掲載する。
- ・ミナクルヘチラシとポスターを掲示する。
- ・夏休み前に小学生ヘチラシを配布する。(世帯配布)
- ・参加人数に余裕があれば、保護者メールでの案内を行う。(8/1)

(12) 来館時・退館時の確認

保護者が送迎する場合は、受付にて保護者同伴であることを確認する。

保護者が送迎しない場合は、受付にて子どもを確認する。

(13) その他

暴風警報が発令されている場合や午前中に解除された場合は中止とする。

3 参加状況

(1) 学校別

() は前年度

	8/6 (火)	8/7 (水)	8/8 (木)	計
大崎小	2名	1名	2名	5名 (1名)
植田小	15名	14名	11名	40名 (39名)
野依小	3名	5名	3名	11名 (13名)
大清水小	6名	5名	7名	18名 (13名)
富士見小	5名	8名	7名	20名 (10名)
老津小	3名	5名	5名	13名 (10名)
合計	34名	38名	35名	107名 (86名)

南高校生	25名	21名	18名	64名 (61名)
------	-----	-----	-----	-----------

(2) 学年別

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	合計
参加者数	8 名	15 名	21 名	16 名	22 名	25 名	107 名

(3) 年度別

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
参加者数	39 名	86 名	107 名

対前年度比 21 名増 24.4%増

(4) その他特記すべき事項

- ・大清水小学校の一部の学年ではタブレットを使用しての宿題もある。
- ・本年度参加した小学生実人数 43 名のうち、昨年度参加した小学生が 23 名おり全体の約半数を占めていた。
- ・本年度参加した小学生実人数 43 名のうち、3 日間連続で参加した小学生が 26 名おり全体の半数以上を占めていた。
- ・当初参加申込みが 1 日だった小学生が、教室終了後追加して翌日も参加申込みを行った小学生が 5 名いた。

4 アンケート結果

(1) 保護者から聞き取り

- ・子どもの宿題がかなり進んだので助かった。
- ・高校生がやさしく丁寧に教えてくれたため、子どもが楽しく勉強できた。
- ・勉強の場としてミナクルがあると環境が新鮮で勉強しやすい。
- ・親が言っても家ではなかなか宿題をしないので、この夏休み教室は助かる。
- ・放課後児童クラブがいっぱいだったので助かった。
- ・宿題のうち作文があまり進まなかった。
- ・8/1 の出校日に提出する作文やポスターの応援をお願いしたいので、日程の前倒しをして欲しい。
- ・来年度も開催して欲しい。

(2) 小学生から聞き取り

- ・今まで分からなかったところができるようになった。
- ・夏休みの宿題がすべて終わった。
- ・高校生と仲良くなれた。
- ・もっと日数を増やして欲しい。
- ・来年度も開催して欲しい。
- ・宿題の後のゲームが楽しかった。

(3) 高校生から

①宿題を教えてどうだったか

- ・子どもたちの分からないがどんどん分かるに変わってく姿を見て、嬉しかった。
- ・子どもたちの集中が続くようにサポートするのが難しかったが、「〇時まで頑張ってみよう」とか「〇問までやろう」などと進める範囲を決めたら、集中して宿題を進めることができた。
- ・詩の宿題や漢字の練習などはどう教えたら良いのか悩んだが、話しかけたり、質問したり試行錯誤したことで、とても良い経験をする事ができた。また、想定外の事を聞かれたりして、とても驚かされた。
- ・以前中学校で習った内容や、したことのない問題が多かったので、教えるのに苦戦した。
- ・漢字など別の意味の読みでヒントを教えても、そのヒントの意味を理解できないなど、教えるのが難しかった。
- ・詩の書き方や虫の成長の様子について、あらためて言語化して教えるのが難しかった。上手く伝わらないこともあった。でも、図書館で詩の本を探したり、映像を見せてあげたりと自分なりにサポートできて良かった。
- ・一人ひとりの考え方や思っていることは違うので、多くの子どもたちと関わられて良かった。
- ・自由研究で調べ物をしている子どもを手伝ったが、ネット上は漢字がたくさんあり、1年生では読めないし、説明してもうまく伝わらず難しかった。
- ・主に算数を教えたが、掛け算や割り算を教えるのが特に難しかった。答えは出せるが解き方や考え方を教えることが上手にできず苦戦した。
- ・十分の一の位、百分の一の位など自分の頭では分かっているが、言葉で説明するのは難しかった。
- ・小学生だと集中力が長く続かないので、時間で区切りながらメリハリをつけて勉強を進めることが大事だと感じた。
- ・「なぜこうなるのか」という疑問に答えることがとても難しかった。
- ・小学生が習っている範囲で分かりやすく教えることが難しかった。自分の頭の中で理解するだけではなくて、それを小学生に言葉にしてうまく説明することが大切だと思った。
- ・言葉だけでは伝わらないので、イラストで説明したら理解できた。
- ・詩の作文において、子どもの詩ではなくなってしまうことのないように教えるのが難しかった。

- ・音楽の問題や昔習った問題などがたくさん日誌に出てきて、自分も分からず、教えるのが難しかった。
- ・作文において、家族について書くため、そこを聞き出すのがとても難しかった。あくまで子どもの考えを書かないといけないため、添削に時間がかかった。
- ・具体的な例で考えたり身近なもので例えたりして、工夫するのが大変だった。
- ・教える学年によって、話すレベルを変えるのが大変だった。
- ・ローマ字や単位の変換、ものさしの読み方など、覚えなないといけないことをどのように教えたらいいいのか難しかった。
- ・国語の擬音で、その光景を思い浮かばせることで解くことができた。覚えたことを使って別の問題を解くことで自信をつけることができた。
- ・詩を書いていた子どもに上手にできる方法を教えた後、自らすらすら詩を書けたことが嬉しかった。
- ・工作において、テープの貼り方、ハサミ・カッターの使い方や力の入れ具合が上手にできなかつた。また、怪我しないように気をつけるのが大変だった。
- ・社会の用語問題は算数に比べて教え方が難しかった。
- ・複数の生徒を同時にみるのはとても大変だった。
- ・初日に比べ二日目は教え方のコツがつかめた。算数問題を教えて、その子どもが解けた瞬間はとてもやりがいを感じた。
- ・11月の教育実習で教えることになるので、何をどのように教えるのか、どうしたら伝わるかについて考えることが勉強になった。
- ・丸つけをしていて、たくさんの丸があるのを見て私も嬉しくなった。
- ・国語辞典などが近くにあったら良かった。

②今後の「ミナクル夏休み教室」はどうか

- ・小学生も高校生ももっと人数を増やしても良い。
- ・この教室は、小学生は勉強をして学べるし、高校生は教えることの大切さや難しさを得たりでき、とても良い機会なので継続して欲しい。
- ・家でなかなか勉強できない子どもが多いと思うので良い機会だ。
- ・最初に遊びがあると伝えてしまうと、そちらに気がいってしまうので、それは伏せておくべきだと思った。
- ・時間が短いので、もう少し長くした方が良い。
- ・子どもたちは宿題を行い、親は子どもを預けられる素晴らしい事業である。
- ・遊ぶ場所をもっと増やしても良い。

③その他（自由意見）

- ・今回は小学6年生の子どもの勉強を教えたが、他学年の問題も教えられるようにしたい。
- ・子どもたちと勉強のほか、いろいろなお話やゲームができて楽しかった。
- ・教師になりたい自分にとって、小学生と関わるこのような機会は貴重でありがたい。
- ・普段小学生と関わることができないのですごく新鮮だった。
- ・小学生が分かったときや笑っているときはとてもかわいくて楽しかった。
- ・子どもたちと1日で仲良くなれるとは思っていなかったので楽しかった。
- ・少し時間が経つと、まわりの子が遊びに行き始めてしまったので集中力を切らしてしまう子が多かった。
- ・また来年や再来年も是非参加したい。
- ・学校の先生よりも年齢が近い高校生が教えることでより質問しやすい。
- ・自分は教える側だったけれど、今回のミナクル夏休み教室を考え運営された方に感謝する。

5 成果と課題

昨年度の課題であった小学生の参加者数だが、本年度は3日間で延べ107名となり、前年度86名に対し21名増の24.4%増となった。増加要因としては、毎年の定期開催により認知度が高まってきているということのほか、今年度の参加者の約半数が昨年度の参加者であることや、今回の参加者が追加して翌日も参加していることから、本教室の実体験に伴う期待度や満足感が高いということがあげられる。

内容については、本年度も高校生の参加者数が多かったことにより、学校ではできない少人数指導が実現し、小学生一人ひとりに寄り添ったきめ細かい支援ができた。また、宿題が終わってしまった小学生に対し、高校生が遊びなどで対応したことも、お互いに有意義な時間となった。3日間連続で参加した小学生については、2日目3日目も同じ高校生が教えるなど、お互いの関係が構築されており、地域内交流という視点からも成果があった。これらは、小学生と高校生は年齢が近いと親近感が湧き、教師と生徒のような学校とは異なる関係になっていると思われる。保護者や小学生の聞き取り、及び高校生のアンケートにおいて、「夏休みの宿題が終わった」「楽しく勉強できた」「高校生にとって良い体験になった」との声から、本教室の目的である小学生の「宿題支援」と高校生の「学習支援体験」、そして人と人との「地域内交流」において、大変意義のある取り組みとなった。

このようなことから、本年度の夏休み教室は、昨年度に比較し参加者が増加し、それぞれアンケートの意見からもかなり好評で、全体的に大きな成果を得ることができた。しかしながら、定員にほぼ達したとは言え、まだまだ知らない方がいることを考えると、今後も引き続き周知の工夫や定員についても再考する必要がある。また、子どもは遊びを覚えるとすぐにそちらへ行く傾向にあることから、ゲームなどの遊びの時間を工夫する必要がある。

6 今後の開催に向けて

来年度について、基本的な教室の枠組みは今年度と同様に行い、本教室の周知の工夫や参加者が増えた場合のスペースの確保を検討するとともに、ゲームなどの遊びの時間を再考するなど、教室自体の内容のさらなる充実を図る。

【夏休み教室の様子】

